

予報本文

チ ヤ

1 カンザワハダニ

予報内容 発生量：山城：平年比やや多い（前年比やや多い）
丹波：平年比やや多い（前年比やや多い）
丹後：例年比やや多い（前年比やや少ない）
防除時期：3月上旬

予報の根拠

- (1) 2月第5半旬現在、寄生葉率は山城で平年並、丹波で平年比やや多く（+）、丹後で例年比やや多かった（+）。
- (2) 山城の一部の茶園で卵を確認したが、丹波、丹後では産卵は確認しなかった。産卵葉率は山城で平年比やや多く（+）、丹波で平年並、丹後で例年並であった。
- (3) 発生ほ場率は山城及び丹波で平年比やや多く（+）、丹後で例年比多かった（+）。
- (4) 向こう1か月の気温は平年並または高く（+）、降水量は太平洋側で平年並または多く（-）日本海側で平年並と予想されている。

カンザワハダニ調査結果（100葉調査）

調査日：平成27年2月23～24日

地域	寄生葉率(%)			産卵葉率(%)			発生ほ場率(%)		
	本年	平年値	前年値	本年	平年値	前年値	本年	平年値	前年値
山城	0.90	1.13	0.05	0.57	0.34	0.00	42.86	26.84	4.76
丹波	0.83	0.47	0.00	0.00	0.14	0.00	50.00	13.34	0.00
丹後	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	25.00	0.00	0.00

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 越冬雌成虫は休眠から醒めると体色が朱色から濃赤色に変わり、活動を始める。
- (2) 卵は日数が経つにつれ、透明から黄色となり、ふ化が近づくと赤みを帯びる。
- (3) 越冬虫数が多いと、春期の発生も多くなる傾向がある。気温が上昇し、暖かい晴れた日が続くと、急速に産卵、増殖する。
- (4) 幼若虫の発生が認められるほ場では防除適期に留意する。
- (5) 防除は一番茶の萌芽前に行う。
- (6) 毎年多発する園や秋期に防除しなかった園では注意する。

参 考

I 近畿地方 1 か月予報

(2月28日から3月27日までの天候見通し)

平成27年2月26日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20	40	40
降水量 (日本海側)	30	30	40
(太平洋側)	20	40	40
日照時間 (日本海側)	30	40	30
(太平洋側)	40	40	20

病虫害防除所では上記の天候の1か月予報の表現を「向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は太平洋側で平年並または多く日本海側で平年並、日照時間は太平洋側で平年並または少なく、日本海側で平年並」としました。

II 用語の定義

1 半旬のとり方

第1半旬 第2半旬 第3半旬 第4半旬 第5半旬 第6半旬

各月の 1～5日 6～10日 11～15日 16～20日 21～25日 26～最終日

2 発生量 — — — 病虫害の発生程度と広がり的一面を加味したものをいう。

3 平年値 — — — 原則として過去10か年の平均とする。
データが10年に満たない場合は例年値とする。

4 平年値との比較

1) 時期

平年並	平年値を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
やや遅い	平年値より3～5日遅い
早い	平年値より6日以上早い
遅い	平年値より6日以上遅い

2) 量(発生量、発生面積等)

平年並	平年値並の発生で10年間に4回は発生する程度の普通の量
やや多い	「平年並」より発生が多く、10年間に2回程度の頻度で発生する量
やや少ない	「平年並」より発生が少なく、10年間に2回程度の頻度で発生する量
多い	「やや多い」より多く、10年間に1回程度しか発生しない量
少ない	「やや少ない」より少なく、10年間に1回程度しか発生しない量

Ⅲ 予報本文の見方

(見方の例)

3 チャノコカクモンハマキ

予報内容 発生量：山城 平年比少ない (前年比少ない)
丹波 平年比やや多い (前年比やや多い)
発生時期：第3世代幼虫ふ化期8月第3～4半旬 (平年並)

- ・「予報内容」は、今後の病虫害発生状況や発生時期の予測を平年比として示しています。
- ・平年比の考え方は、「Ⅱ 用語の定義」の「4 平年値との比較」を参照してください。
- ・()内の前年比は予想月の前年の発生量(時期)との比較を示しています。
- ・必要に応じて地域別に示しています。

予報の根拠

- (1) 7月中旬現在、第2世代の発生量は山城で平年比少なく(－)、丹波でやや多い(＋)。
- (2) 第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺盛期は平年並であった。

- ・「予報の根拠」は、巡回調査の結果、天候、フェロモントラップへの誘殺状況、指導機関からの情報等、「予報内容」で示した発生量や発生時期の根拠となった事項を示しています。
- ・文中の(－)、(＋)は、発生量の予想に影響を及ぼすと考えられるもので、(－)の場合は発生量が少なくなる要因、(＋)は発生量は多くなる要因を示します。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、4回世代を繰り返し、第2世代成虫が7月下旬～8月上旬に発生し産卵する。
- (2) ふ化した幼虫は成長すると、葉を綴って食害するようになり、薬剤がかかりにくくなるので、ふ化直後の若齢幼虫期の防除が効果的である。

- ・「発生生態及び防除上注意すべき事項」は、当該病虫害の生態、薬剤防除や耕種的防除上の留意事項、要防除水準等を示しています。

IV 短期暴露評価の実施に伴う農薬の変更登録について

農薬の登録にあたっては、これまで、残留農薬の摂取量について、一日摂取許容量（ADI）を超えなければ食品安全上問題ないものと判断されてきましたが、今般、急性参照用量（ARfD）を超えないかという点についても評価されること（短期暴露評価）となりました。

今後、現在登録を受けている農薬について、順次、急性参照用量が設定されるとともに、短期暴露評価が実施されることとなります。

この結果、登録内容が変更される場合、変更登録が申請された段階で、農薬メーカーから変更登録の内容（商品名、変更事項等）が発表されます。これらの農薬は変更登録の前であっても、変更後の使用方法に基づいて使用するようになります。

1 使用方法が変更された農薬

有効成分 (変更年月日)	主な商品名	変更内容※
アセフェート (平成26年11月17日)	オルトラン水和剤	適用作物削除 適用時期変更 使用回数変更 希釈倍率変更
	オルトラン粒剤	
	オルトランDX粒剤、	
	ジェイエース水溶剤、ジェイエース粒剤	
	スミフェート水溶剤、スミフェート粒剤	
	ジェネレート水溶剤、ジェネレート粒剤	
ジメトエート (平成27年2月4日)	ジメトエート乳剤、ジメトエート粒剤	適用作物削除
	ベジホン乳剤	
フルバリネート (平成27年2月18日)	マブリック水和剤20	適用作物削除 適用時期変更
	マブリックEW	
	マブリックジェット	
フェナリモル (平成27年2月18日)	ルビゲン水和剤	適用作物削除
	スペックス水和剤	
NAC (平成27年2月18日)	マイクロデナポン水和剤85	適用作物削除
	デナポン水和剤50	

(平成27年2月20日現在)

※ 変更の詳細については下記の農薬工業会のサイトにて確認することができます。(要登録) また、上記の有効成分の農薬を使用されている方は使用方法をご確認の上、使用していただきますようお願いいたします。

2 今後使用方法が変更される予定の農薬

有効成分 (変更予定年月日)	主な商品名	変更内容※
カルボスルファン ベンフラカルブ	ガゼット粒剤、アドバンテージ粒剤	適用作物削除
	アドバンテージS粒剤、オンコル粒剤	
	オンコル粒剤5、オンコル粒剤1	
	ジャッジ箱粒剤、オンコルスタークル粒剤	
	オンコルマイクロカプセル、オンダイアエース粒剤	
	ホームガーデン粒剤	
	ガーデンホスピタル粒剤	

(平成27年2月20日現在)

※ 変更の詳細については下記の農薬工業会のサイトにて確認することができます。(要登録) また、上記の有効成分の農薬を使用されている方は使用方法をご確認の上、使用していただきますようお願いいたします。

※病害虫防除については、病害虫防除所・最寄りの農業改良普及センター又は農協にご相談ください。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください。

ホームページアドレス http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/index.html

農業改良普及センター 電話番号一覧		
・京都乙訓	農業改良普及センター	075-315-2906
・山城北	農業改良普及センター	0774-62-8686
・山城南	農業改良普及センター	0774-72-0237
・南丹	農業改良普及センター	0771-62-0665
・中丹東	農業改良普及センター	0773-42-2255
・中丹西	農業改良普及センター	0773-22-4901
・丹後	農業改良普及センター	0772-62-4308

農作物病害虫情報サービス

・ホームページアドレス

<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/>

京都府病害虫防除所

〒621-0806 京都府亀岡市余部町和久成9

TEL 0771-23-9512

FAX 0771-23-6539

－農薬の使用にあたっては使用基準を遵守すること－